

令和5年度 学校経営計画書

学校番号	8	学校名	静岡県立沼津特別支援学校愛鷹分校	校長名	青木 暁乃
------	---	-----	------------------	-----	-------

1 目指す学校像

(1) 教育目標

共に育てる 自立と輝き ～生徒の能力を最大限伸ばし、個々のよりよい自立と輝きを支援する～

- ・働くことへの夢と喜びを見出し、意欲を育て、実現に向かって前向きに進むことができること
- ・高等学校や地域と連携・協働しながら共生社会の実現を進めること
- ・誰もが互いに尊重し合い、互いの命を大切にし、安全に安心して過ごすこと
- ・教職員にとって、健康で、安全に、仕事にやりがいをもてる、働きやすいこと

(2) 目標具現化の柱

- ア 人権尊重、命を守る教育に基づいた、生徒が安全に安心して学習できる学校 (安全)
- イ 生徒理解に基づき、個の能力を最大限に伸ばすための支援及び指導ができる学校 (専門)
- ウ 保護者、地域、関係諸機関等との連携に基づいた、共生社会の実現を目指す学校 (連携)
- エ 教職員のチーム意識に基づいた、効率よく迅速に業務を遂行できる学校 (チーム)

2 本年度の取組 (重点目標はゴシック体で記載)

	取組目標	達成方法 (取組手段)	成果目標	担当部署
安全	人権に配慮した指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・「さん」付けと挨拶の励行。 ・児童生徒との関わり方について率直に思いを伝え合う。 ・道徳の意義や在り方をもとにした授業の実践を行う。 ・社会のルールを考える機会の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、相手の人権を尊重した対応を日々行っている。 ・保護者が、児童生徒の人権が尊重されていると感じている。 ・生徒が、安心して学校生活を送ることができている。 	生徒指導 教務
	自ら命を守るため、未然防止と緊急対応の、実践力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防の徹底 ・生活に即した防災訓練、緊急体制訓練の実施と事後の見直し ・各学年の押さえによる生活に生かせる防災学習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を鑑み必要な対策のもと教育活動が実施されている。 ・発災、緊急時に自分の身を守る対応を理解し、行動できる。 ・日々、安全を意識した行動がとれるような指導を行っている。 	生徒指導 教務 保健体育
専門	キャリア教育の視点に基づいた、知的障害の特性に応じた指導・支援の向上と継承	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の生活を見通した職業の授業の実施。 ・各学年の学校生活や職場実習の目的等を意識した実習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、3年間を見通して必要な内容の指導を行っている。 ・生徒が、実習や授業などでの自分の取り組みを適正に評価できている。 	研修・自立 進路指導
	ICTを活用し、生徒が主体的に取り組む授業づくりの実践	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用に関する研修を行う。 ・書類作成に必要なシステムを身に付ける授業実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、授業の中にICTを効果的に取り入れている。 ・生徒が、授業でICT機器を活用できている。 	情報
連携	生徒の自立と輝きに向けた地域や関係機関との協働の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による学校応援体制の構築。 ・ワーク地域について再確認と活動の実施。 ・適切な時期と必要な参加者による、ケース会議の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員から具体的な支援を得ている。 ・生徒が、ワーク地域に積極的に取り組んでいる。 ・ケース会議後、今後の方針と役割分担が明確になっている。 	進路指導 管理職
	地域とのつながりの強化	<ul style="list-style-type: none"> ・沼津城北高校との共同学習の実施。 ・地域交流、センター的機能の活性化。 ・積極的な広報、発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・各交流の成果を、城北高職員や保護者、地域が理解している。 ・職員が、様々な場面で本校の教育について紹介している。 	学部 特別支援 コーディネーター
チーム	働きがいのある職場環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な職場改善研修を行い、コンプライアンスの意識を高め、風通しの良さを更に向上させる ・ワークライフバランスの励行 ・事務執行状況の情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が、学年経営や学校行事に積極的に参画し、より良い成果を挙げたり課題が解決できたりしたと感じている。 ・職員が事務室からの伝達に必ず目を通してしている。 	学部 管理職